

【資料3】

第41回日本児童文学学会賞の決定について

日本児童文学学会賞、同奨励賞および同特別賞は、わが国の児童文学・児童文化研究の発展に寄与する、年度ごとの優れた業績や新人による意欲的な努力に贈られます。

このほど、二〇一七年六月までの一年間に発表された児童文学・児童文化分野に関する研究・評論の中から、日本児童文学学会員の推薦をもとに、日本児童文学学会賞選考委員会（横川寿美子委員長、内ヶ崎有里子・齋木喜美子・佐藤宗子・中地文の各委員）による選考の結果、次のとおり決定しました。

なお、授賞式は、二月二十五日（土）午後四時四〇分より、岡崎女子大学・岡崎女子短期大学（愛知県・岡崎市）で開催される当学会第56回研究大会の席上にて行います。

二〇一七年一〇月

日本児童文学学会会長 川勝 泰介

第41回日本児童文学学会賞

◇該当作なし

第41回日本児童文学学会奨励賞

◇ミンガド・ボラグ『スーホの白い馬』の真実——モンゴル・中国・日本それぞれの姿』風響社 二〇一六年一〇月三〇日  
【贈賞の理由】本書は、日本で広く親しまれてきた「スーホの白い馬」の成立過程や、作品の思想的・歴史的背景を、モンゴルだけでなく中国での伝承にも切り込み、丹念に整理した力作である。さらに日本における「モンゴル」やモンゴル文化の受容について、「スーホの白い馬」の受賞過程を手がかりに解明したことは、絵本・児童文学研究のみならず、国語教育研究にも意義がある。

【受賞者の略歴】ミンガド・ボラグ（宝力嘎）。一九七四年、内モンゴル自治区シリントウ草原生まれ。二〇一一年、関西学院大学教育学部専任研究員。博士（教育学）。内モンゴル自治区シリントウ盟職業学院教育学部専任研究員。現在は翻訳・通訳として働く傍ら馬頭琴奏者としても活躍中。主要業績に『入門 臨床教育学』（共著 学事出版）など。

第41回日本児童文学学会奨励賞

◇森下達『怪獣から読む戦後ポピュラー・カルチャー——特撮映画・SFジャンル形成史』青弓社 二〇一六年一〇月三二日

【贈賞の理由】本書は、一九五〇年代から八〇年代に至る日本の特撮映画の歴史を、同時期のSF界の動向と関連づけてたどった意欲作である。ゴジラ等の怪獣や怪人が本来有していた現実との接点がいかにして失われ、政治性・社会性の希薄なジャンルが形成されて行ったかの検証過程は刺激的で示唆に富み、児童文化研究の今後の進展に大いに寄与するものと言えよう。

【受賞者の略歴】一九八六年、奈良県生まれ。京都大学大学院文学研究科博士課程修了。博士（文学）。東京成徳大学人文学部助教。専門はポピュラー・カルチャー研究。主要業績に「地底国の怪人」（一九四八年）の物語構造——戦前・戦中期の児童文化との連続性と画期性——』『マンガ研究』二三号）など。

第41回日本児童文学学会特別賞

◇武田雅哉『中国のマンガ〈連環画〉の世界』平凡社 二〇一七年二月二四日

【贈賞の理由】本書は、二〇世紀の中国で生まれた「連環画」という特殊な様式の読み物について、その前史から誕生・発展・衰退にいたるまでを、時代の流れに従いつつ豊富な図版を活用して、その多様な実態を概略的に紹介した書である。新たなメディア研究の緒をひらく第一歩としての意義は大きく、今後の児童文学・児童文化研究に資するものである。

【受賞者の略歴】一九五八年北海道生まれ。北海道大学大学院文学研究科修士課程修了。現在、北海道大学文学部教授。主な著書に、『翔べ！大清帝国』（リプロボート）、『蒼顔たちの宴』（ちくま学芸文庫）、『猪八戒の大冒険』（二重堂）、『桃源郷の機械学』（学研文庫）、『星への筏』角川春樹事務所、『清朝絵師 吳友如の事件帖』（作品社）、『よいこの文化大革命』（廣済堂出版）、『楊貴妃になリたかった男たち』（講談社選書メチエ）、『中国乙類図像漫遊記』（大修館書店）、『万里の長城は月から見えるの？』（講談社）など。その他、共著、翻訳も多数。